



私の中で今

生きているあなた

Inside me, you are alive now

題字は日高恵舟さんの作

パネル展の足跡過去36回の実績から思い出に残る10回分を紹介します



助成：ラッシュジャパン

思い出に残るパネル展10選 (1) ”絆”

第30回パネル展In岩国 (助成：厚生労働省)

1) 言葉 写真 糸井

毎日新聞、読売新聞、NHK、山口放送で紹介される



パネル前で思いを語る田中さん(左)と寺尾さん



孫を見つめる

フォーラムに140名、パネル展に232名、岩国の自死遺族自助グループ代表寺尾真澄さんのご一家はおばあちゃんも含め全員参加。お寺さんも、幼稚園時の先生、交際していた彼も見学。家族と地域の絆の強さを強く感じた。

自死遺族の悲しみ伝える

自殺への偏見をなくすことなどを目的とした「自死遺族フォーラム」が3日、岩国市民会館で開かれる。遺族の一人は「誰にでも起こりうる問題として考えほしい」と訴えている。

同市で発足した「自死遺族分ちあいの会 木洩れ陽」と県岩国健康福祉センターの共催。

フォーラムでは、長男(当時34歳)を亡くした全国自死遺族連絡会世話役の田中幸子さん(62)(仙台市在住)が「失われた命の意味について」と題して講演する。

木洩れ陽代表の寺尾真澄さん(52)(岩国市在住)も、次女(当時23歳)が死を選んだ経緯などについて語る。過労やうつ病で



フォーラム会場風景

パネル展会場風景

フォーラムで岩国

自死した働き盛りの人たちの写真や遺書、残された遺族の手記などを紹介するパネル展も開催する。入場無料。フォーラムは午後1時から。

県によると、昨年の県内の自殺者は366人(暫定値)で、ここ数年、400人前後で推移している。寺尾さんは「遺族の悲しみや、故人の『生きたくかった』という思いを伝えたい』として来場を呼びかけている。

2012年3月3日 寺尾礼さん(24歳)の命日

自死遺族フォーラム

きょう 岩国市民会館で

自殺予防月間に合わせて3日、岩国市民会館で開かれる「自死遺族フォーラム2012 in 岩国」では、子どもを失った2人の母親が遺族の思いを語る。講演するのは、同市



生前の礼さんの写真を前に語り合う寺尾さん(右)と田中さん

の「自死遺族わかちあいの会 木洩れ陽」代表の寺尾真澄さん(62)と、仙台市の遺族の会「藍の会」代表の田中幸子さん(62)。

寺尾さんの次女、礼さん(当時23歳)は08年3月に亡くなった。看護師3年目でうつ病の傾向を指摘され、自宅療養していた。「助けてあげられなかった」と悩む寺尾さんが目にしたのは、田中さんが世話人を務める「全国自死遺族連絡会」が開いた「全国自死遺族フォーラム」の新聞記事だった。思い悩んだ末、2カ月後に寺尾さんは田中さんに電話をかけ、「分かってくれる人がいた」と涙があふれたという。

田中さんは05年11月、警察官の長男健一さん(当時34歳)を亡くした。高校生3人が死亡する飲酒運転事故が発生し、忙殺されていた。田中さんは06年に「藍の会」を発足。寺尾さんは県内にも交流の場が必要と感じて10年3月、県内初の交流会「木洩れ陽」を設立し、遺族の語り合いを続けている。

フォーラムは午後1時から。寺尾さんは、自死した人も「生懸命、生きていたこと、悲劇は誰にでも起こりうる」と話すという。午前10時からには、亡くなった50人の写真と遺書、遺族らの手記を集めたパネル展も無料。

【大山典男】

思い出に残るパネル展10選 (2) ”親愛”

第2回パネル展 2007年5月大阪 (助成：日本財団)

大阪の大橋錦美さんが写真も実名もさらし訴えた。夫が亡くなったのはわずか半年前だった。反響は西日本全体に及び600名から1000名が見学



大阪会場風景

大阪会場風景

大橋錦美さん

主催者伊福達彦

朝日新聞2007. 5. 30

過労・うつ 自ら命絶ったあなた

増える自殺者 「サポート必要」

東京でも展示会
展示会を企画したのはNPO法人「働く者のメンタルヘルス相談室」。個人加盟できる労働組合「管理職ユニオンス」東西1の事務所内に昨年4月に設立された。精神科医や弁護士などの協力のもと、伊福達彦理事長が、働くことで心を病んでしまった人や家族からの相談に応じている。休職や療養生活中の人のサポート、労災などの手続きについてのアドバイスのほか、相談員育成にも取り組む。

企画展では、過労によるうつで自殺した東京の小児科医、中原利郎さん(当時44)の遺書や、長時間労働の末、過労自殺した京都の飲食店店主、寺西彰さん(当時40)の写真など約30点を展示。

また、「安全装置の壊れた社会の受難 50人の遺書」として、過労やうつで自殺した人たちの死亡年月日、年齢、会社名などを裁判資料などからリストにして掲示している。

うつ病などの精神障害で06年度に労災認定を受けた人は205人で、前年度の1.0倍と急増。このうち「過労自殺」は80人(未満1人)で過去最多となっている。

伊福達彦理事長は「過労死の中でも、自殺した人の遺書は衝撃的なサポート体制が必要になっている」と話す。展示会は東京都江東区の総合市民センターでも6月30日〜7月4日まで開かれる。問い合わせは同相談室＝03-6242-8596

遺書や写真、手記を展示 大阪来月4日まで

大阪の過労やストレスを訴え、自ら命を絶った人の遺書や写真、手記などを初公開する展示会。職の中で、生きているあなたへが5月4日まで、大阪市北の東区中央の「二聖」同じく「遺書」を打ち出す。表名も「遺書」を打ち出す。表名も「遺書」を打ち出す。表名も「遺書」を打ち出す。

展示会のパネルのつとに、大手運送社に勤務していた兵庫県三木市の大橋錦美さん(当時37)が「一緒に生きていた妻が亡くなった」という写真が並んでいる。昨年11月の朝、部屋中に、仕事のつらさがあふれ、妻の遺書と、トランプの数字のカードが並べられた。妻の遺書は「おまえさん(行)は必ず生きて帰るよ」とあった。妻が出たのが、自分から出た。妻が出たのは、自分から出た。妻が出たのは、自分から出た。

その中心には、1時間ほど寝て、目覚めると、妻の遺書が枕元に落ちていた。妻の遺書は「一緒に生きていた妻が亡くなった」という写真が並んでいる。昨年11月の朝、部屋中に、仕事のつらさがあふれ、妻の遺書と、トランプの数字のカードが並べられた。妻の遺書は「おまえさん(行)は必ず生きて帰るよ」とあった。妻が出たのが、自分から出た。妻が出たのは、自分から出た。

「次は犠牲者を出さないため、夫の人生を知って欲しい。」

大阪入籍後、「初期症状」を訴え、2006年10月に自殺した大橋錦美さんの遺書。目撃者によると、大橋さんは「夫の人生を知って欲しい」と訴えていた。大橋さんは「夫の人生を知って欲しい」と訴えていた。大橋さんは「夫の人生を知って欲しい」と訴えていた。

NHK, 読売テレビ、朝日新聞生活面、毎日新聞、読売新聞で報道された

思い出に残るパネル展10選 (3) ”トヨタの職人”

第8回パネル展2008年8月 名古屋 (助成:日本財団)

会場にはトヨタ社員の夫を失った内野弘子さんが駆け付けた。入口に内野健一さんの遺品が並べられ、見学者は列をなして見入っていた。また警察官の長男を亡くした田中幸子さん、鈴木自動車の社員だった息子を無くした小松さんご夫婦の姿もあった。600人以上の見学者で会場はごった返した。

中日新聞2008年11月9日

自殺者の『叫び』聞いて
過労・バウラ 50人の遺書展示

「目を覚ましてほしい」「泣き止めてほしい」。17年連続開催の「万全会館」で、自殺者の遺書や遺族の手記が展示されている。過労やバウラ(うつ)など、さまざまな理由で命を絶った50人の遺書や遺族の手記が、名古屋市中村区の万全会館で展示されている。展示は11月9日から15日まで、午後1時から午後5時。入場は無料。展示は、自殺者の遺書や遺族の手記、自殺者の写真や遺品のほか、自殺者の家族や友人の手記も展示されている。展示は、自殺者の家族や友人の手記も展示されている。展示は、自殺者の家族や友人の手記も展示されている。

中村区
小児科救急 実態報告も
その場しのぎ



朝日新聞2008年11月8日

過労・うつ...なぜ自ら命絶った
50人の「心」触れて

「息子の死を無駄にしない」
遺族来場、自殺予防訴え

遺族も会場を訪れた。05年11月に警察官だった長男の田中健一さん(当時20)を失った幸子さん(50)も、今、生きています。また一展が8日、名古屋市中村区の名古屋国際センターで始まった。10日、5年ぶりに同県多治守市で、仙居高等学校高の生かす会が主催する「18人が死傷した事故の調査を担った4カ月分の体みなく働きつづけた」として自ら命を絶った幸子さんは「息子の死を無駄にしない」と訴えている。幸子さんは「息子の死を無駄にしない」と訴えている。幸子さんは「息子の死を無駄にしない」と訴えている。

遺書や遺族手記展示
名古屋から

朝日新聞2008年11月9日
2008年(平成20年)11月9日 日曜日 名古屋

「息子の死を無駄にしない」
遺族来場、自殺予防訴え

遺族も会場を訪れた。05年11月に警察官だった長男の田中健一さん(当時20)を失った幸子さん(50)も、今、生きています。また一展が8日、名古屋市中村区の名古屋国際センターで始まった。10日、5年ぶりに同県多治守市で、仙居高等学校高の生かす会が主催する「18人が死傷した事故の調査を担った4カ月分の体みなく働きつづけた」として自ら命を絶った幸子さんは「息子の死を無駄にしない」と訴えている。幸子さんは「息子の死を無駄にしない」と訴えている。幸子さんは「息子の死を無駄にしない」と訴えている。

中村区・50人の遺書展

思い出に残るパネル展10選 (4) ” 息子への思い”

第15回パネル展2009年11月 島根 松江 (助成：日本財団)

地元自死遺族のグループの全面協力で実現。島根県知事も見学。



2009年11月7日 山陰中央新報

2009年11月6日 中国新聞

自殺者遺族の思い知って

松江できょうから展示 50人の遺書や写真

自殺者の遺書や写真を展示したパネル展「50人の遺書や写真」が、松江で6日、7日、8日の3日間、松江市の県民会館で開かれる。主催する自死遺族の自助グループ「足立さん(59)は8年前に自死した息子(20)の遺書と写真を初めて出した。」

足立さん(59)は、8年前に自死した息子(20)の遺書と写真を初めて出した。遺書には一言も触れられなかったが、息子が「生懸命信が消えない」という。足立さんは「自死の悲しみや犯罪への怒りを反映したい」と家族の反対を説き伏せ、出展を決意した。今年、同じ遺族が集う自助グループに参加し、仲間から力をもらったのがきっかけだった。展示パネルは80点。一大きくならんら博士になってタイムマシンをつくり、お父さんが死ぬ前日に行つて「仕事行つたらあかんでいうんや」といふ親を亡くした坊や(子)の詩や自死者の日記、遺書が並ぶ。来場した松江市の主婦(59)は「人を(死に)追いつめてしまう社会とは、何だろう」と投げ掛けた。

自殺者の遺書や写真を展示したパネル展「50人の遺書や写真」が、松江で6日、7日、8日の3日間、松江市の県民会館で開かれる。主催する自死遺族の自助グループ「足立さん(59)は8年前に自死した息子(20)の遺書と写真を初めて出した。」

足立さん(59)は、8年前に自死した息子(20)の遺書と写真を初めて出した。遺書には一言も触れられなかったが、息子が「生懸命信が消えない」という。足立さんは「自死の悲しみや犯罪への怒りを反映したい」と家族の反対を説き伏せ、出展を決意した。今年、同じ遺族が集う自助グループに参加し、仲間から力をもらったのがきっかけだった。展示パネルは80点。一大きくならんら博士になってタイムマシンをつくり、お父さんが死ぬ前日に行つて「仕事行つたらあかんでいうんや」といふ親を亡くした坊や(子)の詩や自死者の日記、遺書が並ぶ。来場した松江市の主婦(59)は「人を(死に)追いつめてしまう社会とは、何だろう」と投げ掛けた。

自死者の遺書、日記、詩…

松江でパネル展始まる

息子の遺書や写真で構成したパネルの前で、残された遺族の思いを話す足立さん(59)松江市殿町、県民会館

足立さん(59)は、8年前に自死した息子(20)の遺書と写真を初めて出した。遺書には一言も触れられなかったが、息子が「生懸命信が消えない」という。足立さんは「自死の悲しみや犯罪への怒りを反映したい」と家族の反対を説き伏せ、出展を決意した。今年、同じ遺族が集う自助グループに参加し、仲間から力をもらったのがきっかけだった。展示パネルは80点。一大きくならんら博士になってタイムマシンをつくり、お父さんが死ぬ前日に行つて「仕事行つたらあかんでいうんや」といふ親を亡くした坊や(子)の詩や自死者の日記、遺書が並ぶ。来場した松江市の主婦(59)は「人を(死に)追いつめてしまう社会とは、何だろう」と投げ掛けた。

思い出に残るパネル展10選 (5) ”海を渡る愛しき人の足跡”

第7回パネル展2008年9月東京新宿（助成：日本財団）

NHKが通常の国内向けと海外向けへの2グループが取材した。海外特派員の取材もあり英語が飛び交う、会場であった。放送の翌日番組のナレーションを担当した女子アナが「気になった」と言って見学にきてくれました。見学者203名。

 <p>新宿会場の風景</p>	 <p>新宿会場の風景</p>
 <p>NHK国際の海外向け特集</p>	 <p>NHK国際の海外向け特集</p>

毎日新聞2008年9月2日

過労やうつ病で自殺した人 写真や手記を展示

きょうから 新宿で 組織の体質的問題訴え

過労やうつ病で自殺した人々の写真や手記の展示会が2日、新宿区西新宿の区民ギャラリーで始まる。警察や役所、大企業での労災事例が中心で、企画した大阪市のNPO法人「働く者のメンタルヘルス相談室」の伊福彦彦理事長は「労働者を

自殺に追いやる組織の体質的な問題を訴えた」と話している。東京での展示会は、昨年続き2回目。今回は宮城県警の警部補だった田中幸子さん(59)が、公の場で初めて長男が元氣だったころの写真を公開する。

田中さんによると、長男健一さん(当時34歳)は警察署の交通事故担当となった05年、高校生3人が死亡した飲酒運転事故で激務を強いられ、過労やいじめが原因でうつ病に。同年11月に自殺した。田中さんは自助グループ「藍の会」を組織し

て悲しみを乗り越え、自らの体験を語り続けている。「写真の公開は見せ物のように思えてこれまで控えてきたが、自殺予防につながると思い、踏み切った」という。

会場にはこのほか、トヨタ自動車などの大企業、役所などの事例がずらりと並ぶ。伊福さんは「個々の苦しみや遺族の悲しみをいくら訴えても、大組織が変わらなければ状況は変わらない。今回はそういう思いを込め、組織名も極力、実名で紹介している」と話す。

4日まで。午前10時〜午後6時(4日は午後2時まで)。父親を自殺で亡くした男児の詞に曲を付けた「ぼくの夢」の演奏も予定されている。入場無料。

【市川明代】



長男の自殺について語る田中幸子さん—新宿区立区民ギャラリーで、出口洋次撮影